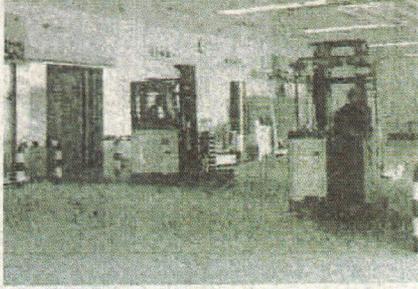


水産加工品輸出へ船出

気仙沼の協組

東日本大震災で被災した水産加工会社でつくる気仙沼産折加工協同組合(宮城県気仙沼市)は、水産加工品の輸出に乗り出す。2016年度からシンガポールで商談会を開き、組合各社がアジア各国の飲食店やスーパーに商品を納入できるように商談成立を目指す。日本国内で魚の消費量が減少する中、海外市場開拓で生き残りを図る。



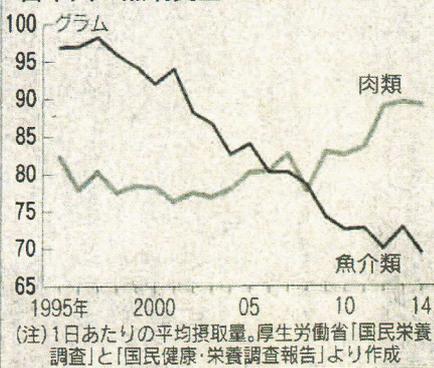
8月からは組合各社が共同利用する大型冷蔵庫が稼働を始めた(気仙沼市)

■ シンガポールで商談会 ■ バイヤー・ブローガー招待

27日からシンガポールで開かれるアジア最大の日本食見本市「フードジャパン2016」で、組合企業20社のうち9社が商品を展示する。イクラやワカメ、イカの塩辛、サンマの缶詰、ツナ缶や

地域とアジア

日本人の魚消費量は減ってきている



気仙沼産折加工協同組合は水産加工会社のかむむらやみやかんなどが12年に設立した。大型冷蔵庫などを共同利用して各社の運転コストを減らすのが目的だ。三井物産や住友商事、キリンググループや農林中央金庫が支援している。組合が輸出に乗り出すのは日本人の食生活が肉類中心へ移っていることが背景だ。

魚消費減に危機感 華僑消費圏 開拓に挑む

本人の魚介類摂取量は10年前より3割減少。水産業にとって国内市場の縮小は死活問題だ。組合が主体となれば自治体の補助金や金融機関の支援も得やすく、個別企業の負担は渡航費だけで済む。組合が狙うのはシンガポールで暮らす中国系の華僑民族。華僑消費圏を開拓すれば東南アジアの他の国へも横展開しやすくなるとみ

サケフレックなど、ほぼすべてを飲食店やスーパーなど現地の事業者が卸売りする。渡航費は各社が負担し、その他の参加費用は気仙沼市からの補助金でまかなう。

組合単独の商談会も開催する。日本製品の海外販路開拓を手掛けるキューアテックス(東京・世田谷)と協力し、同社がシンガポールに持つアンテナショップに組合の商品

を展示。地元飲食店やスーパーの買い付け担当者や買い付け担当者の気仙沼への渡航費用、通訳や開催手続き、商談の手伝いは三井物産や農林中央金庫が組合を支援する。組合企業20社の海外事業による売上高は合計2億3300万円。組合が東南アジアでの輸出支援に取り組みすることで、5年後までに1億2000万円以上に増やす目標を掲げる。

中三、Milkの傘下に

本格再建へファンドから全株取得

青森県の百貨店で経営 薬局などを展開するMilk結んだ。譲渡金額は公表再建中の中三(青森市) K(同)が中三の全株式してない。Milkは中



秋田・にかほ 「歴史みらい館」

TDKは7日、創業の地の秋田県にかほ市に「TDK歴史みらい館」をオープンする。同社が強みとする「磁性技術」を最新デジタルスマートハウスなどを体験できる未来ゾーンに分け、未来ゾーンの体験デモは、TDKは同館の最先端を研究している。設を始めた本館は、東北大学金属材料研究所ト(秋田県由利町)で開発した。き別荘地のやす。すで

ゲオとセブンイレブン

全国初の共同店舗

ゲオとセブンイレブン(HD)と全国初の共同店舗を秋田県湯沢市に開設する。DVDや温泉付、栃木でJR東好、東日本(東日本)は市で開発した。き別荘地のやす。すで